貫井の風

令和３年度１１月号
ＮＯ．７

練馬区立貫井中学校　学校だより

エジソンに学ぶ成功の秘訣

校長　桐野　和之

１９１４年１２月、エジソンが６７歳のときのことです。災難が彼を襲います。ウエストオレンジにあった研究施設が火事になってしまったのです。連絡を聞いて駆けつけ、実験道具や資料など重要なものを持ち出そうと陣頭指揮を執りましたが、時すでに遅し。施設は全て焼け落ち、当時の金額で５００万ドル近い損害を被ってしまいました。

目の前で、今まで自分が築いてきた物全てが燃え落ちる光景を眺めながら、エジソンがしたこと。それは家族を呼び、こう告げることでした。「こんな大きな花火大会はまず見られない。とにかく楽しめ」

そして集まった記者たちに、「自分はまだ６７歳でしかない。明日からさっそくゼロからやり直すつもりだ。今まで以上に立派な研究施設をつくればいいのだ。意気消沈している暇はない」と、平然と言ってのけたのです。

エジソンは、常識だけでなく、時間という概念に縛られることも大変嫌っていました。

普通、我々は「１日＝２４時間」という時間の中で生活しています。しかし、エジソンに言わせれば、１日が２４時間であるというのは、人間が人工的につくったもの。自分が時間の主人公になれば、１日を３６時間でも４８時間でも、自分が好きなように使えるはずだ。というのです。

エジソンの工場の壁には、長針も短針もない大きな時計が掛けられていました。ある日、友人の自動車王フォードが「針がなければ時計の意味がないのでは」と訊ねると、「そうじゃない。時間というのは、自分でコントロールすべきもの。時計のような出来合いのバロメーターに左右されているようでは何もできない。疲れたと思えば、その場で休めば良い。仕事が完成するまでが昼間だ。自分に合ったリズム、これを自分でコントロールすることが大切だ」と答えたと言います。

驚異的なひらめきをつかんで形にし、「天才」と称されることの多いエジソンですが、決して努力を軽んじていたわけではなく、むしろその逆でした。

世界中から寄せられる「どうすれば成功できるか」という問いに、エジソンは、「野心、常識にとらわれない創造力、昼夜を問わず働く意志」の３つの要素を挙げています。１日１８時間は働くことにしたいといいますから、人の２、３倍は濃密な仕事人生を歩んできた自負があったのでしょう。ですから、エジソンにとっては「まだ６７歳」。まだまだ大きな仕事をするのには十分な時間がある、という発想だったのです。それどころか、「肉体は魂の仮の宿の木、滅びれば次の宿り先に移動する」という死生観を持ち、それを証明するための実験を重ねていたくらいですから、「死」という概念すら超え、次なる野心に心を燃やしていたのです。

令和３年度　合唱コンクールに向けた工夫

昨年度は残念ながら、新型コロナウィルス感染予防対応のため、合唱コンクールは実施することができませんでした。２年ぶりとなる貫井中学校合唱コンクールの実施。そのため、今年度はどうすれば実施できるのか。また、どのような工夫をすれば、授業での指導、放課後のクラス練習ができるのか。教職員でさまざまな工夫、アイディアを出し合う必要がありました。

先ずは授業。音楽科の先生が一番悩んだと思います。どうすれば教育委員会の新型コロナウィルス感染予防対応のガイドラインに沿った歌唱指導や合唱練習ができるのか。校内での対策や工夫、知恵を出し合い、以下のことを心がけながら今年度の貫井中の合唱コンクール実施に向けた準備がスタートした。

第一に、できる感染症対策は全て確実にやり尽くす。

マスクは常に着用。生徒、教職員の健康観察の徹底。絶対に無理をしない。体調が悪ければ休む。互いに気を遣う。これは生徒も教職員も共に行う。そして、手洗い、手指消毒、学校内のさまざまな場での換気の徹底。特に気を遣ったのは音楽室。近隣住民の皆さまに迷惑をかけない程度に窓を開けて換気をする。校内の回せる換気扇は全てしっかりと回す。

第二に、歌唱指導の工夫。

音楽の時間の歌唱指導時間がウィルス対策の配慮をすることにより少なくなることが想定されたため、生徒用タブレットに各クラスの自由曲の音源を取り込み、パート別の個人練習が各自でできるようにした。そして、音楽の時間は、絶対に対面にならない、４～５人でピアノ近くでの歌唱指導を行う。その間に他の生徒は距離を取りながら自分が指導を受ける時間を課題に取り組みながら待つ。指導は遅々としているが確実に前に進める指導を行うこととした。また、音楽室内の生徒席には飛沫防止シートを一人一つずつ立てて、感染の予防に努める。

第三に、放課後のクラス練習の工夫。

とにかくマスクは絶対に外さない。そしてパート別練習を少人数で、場所を教室、廊下、校庭、音楽室等に分けて分散して行う。クラス全体での合唱隊形を組んだ練習は、校庭、アリーナ、武道場のみでおこなう。ただし、縦２ｍ、横１ｍの間隔を取り、確実なソーシャルディスタンスの確保に努める。以上のような対策を心がけ、工夫しながら合唱コンクールに向けた練習が始まった。

常に生徒はマスクをしているので、今までの貫井中の合唱練習のような歌声の響きがなかなか聞こえてこない。それでも日を追う毎に、職員室、校長室、事務室、主事室に歌声が確実に響いてくるようになった。マスク越しでも生徒のハーモニーが聞こえてくるようになり、「歌声が響く学校」は活気があって「素晴らしい」と思い、行事に向かう学校の活気に喜びを噛みしめました。

この原稿は１０月２２日（金）に作成しています。どのような合唱コンクールになるのか。今年は例年とは違い、課題曲１曲のみの歌唱ですが、どこまで仕上がるか。そして、その過程で生徒たちがどう成長していくのか楽しみです。

合唱コンクールを終えて

音楽科

秋晴れの暖かい日差しのもと、無事、合唱コンクールが行われました。

コロナ禍で、昨年は、曲目と伴奏者を決めたところで中止となり、２年ぶりの開催でしたが、何とか「文化センター」での発表ができました。

音楽の授業では、１年半程、まともに歌うことができず、緊急事態宣言明けの１０月からようやく練習ができるようになりましたが、１音と２音に分かれ、４人ずつでの音取りでは時間が足りず、合唱までもっていくのは、正直無理がありました。飛沫防止ガードやパーテーションを使い、感染防止をしながらの練習には、他教科の先生方にも監督に入っていただきました。又、各自のタブレットに音源を取り込み、家庭でしっかり声を出して練習してもらうという初めての試みも行いました。うまく活用出来た人もいたようです。とは言え、音楽室で合唱体形を組んで歌えないのは非常に痛手でした。保健体育科の先生方の協力を得ながら、体育館や武道場、そして校庭を使い、何とか合唱のイメージを掴んでもらいました。

当日は、ステージ上では、マスクを付け、前後の間隔をとっての合唱コンクールだったので、発声を兼ねての「校歌」の声が今一つで、本番大丈夫かと心配されました。しかし、トップバッターの１年Ｂ組が、入場から集中し、歌い出しの「負けないって」が、会場の後ろまで届いた時は、マスクをしていても、思ったよりも声が響くなと、ほっとしました。　続く１年生の各クラスも立派な態度で臨み、元気な歌声を響かせました。ボーイソプラノがよく響く中、男声の響きはまだまだで、これからが楽しみという感じでした。

２、３年生になると、曲のレベルも上がり、指揮者は体全体を使い、的確な合図を送ることで曲を盛り上げ、伴奏者も強弱をきかせ見事な腕を披露しました。合唱は、全体的に男声が強く、アルトの歌声が消され気味で、パート間のバランスを取ることが課題となりましたが、どのクラスも頑張って歌い上げました。

今年度は、少ない練習時間での発表で、決して完成したものではありませんでしたが、精一杯歌声を響かせていた姿は、印象的でした。１日も早く、普通に歌える日が来ることを願い、来年も会場に素敵なハーモニーを響かせてくれることを期待します。

実行委員の皆さん、準備から当日まで、本当にお疲れ様でした。

自らが進んで行動する学習こそ効果が上がる

１１月１日　全校朝礼講話

合唱コンクールが終わりました。校内に響いていた歌声が聞こえなくなり、何かお祭りが終わった後のようで少し寂しい感じがします。

さて、今月は期末考査が予定されています。そこで今日は効果が上がる学習方法につ

いて話しをします。
　皆さん、効果が上がる学習方法ってどんな取り組み方だと思いますか。私は、自ら進んで行動する学習が最も大切だと思います。

・授業ではしっかり先生の話を聞く。
・ノートはていねいにとる。
・大切なことはメモをとる。
・分からないことは聞く、質問する、調べる。
・必要な課題にしっかりと取り組む。
　これらの行動の主語はすべてが自分です。こんな話をするときに、どうしても思い出すのが中学校１年の数学の先生。
　その先生は怖かった。聞きにくかった。怖い顔を今でも思い出します。そして、近寄りがたかった。
　でも、勇気を振り絞って行動し、職員室に行って質問に行くと、意外にもていねいに教えてくれたのです。そして、その時に理解できたことは、４０数年経った今も忘れていない。しっかりと覚えている。
　つまり自ら進んで学習の行動を起こしてこそ、効果はてきめんに上がるのです。学習が苦手な人は、自ら行動する学習にぜひ取り組んでみてください。

令和３年度　道徳授業地区公開講座実施予定

　１１月１３日（土）に本校の土曜日公開授業で、道徳授業地区公開講座を実施します。

　授業は９：３５～１０：２５、内容項目はＣ「主として集団や社会とのかかわりに関すること」です。資料には東京都教育委員会が発行している『心みつめて』（東京都道徳教育教材集）の「『精力善用』と『自他共栄』の精神をオリンピックへ　一嘉納　治五郎―」を使用します。そして授業後には本校の平成２０年度卒業生、リオデジャネイロ、東京オリンピック柔道１００㎏グラム級パキスタン代表、シャー・フセイン・シャーさんをお招きして講演会１０：４０～１１：３０を実施します。
　本校の卒業生がオリンピックに二大会連続で出場し、敗れはしたものの、どのような努力をしてオリンピック出場に至ったのか、生徒たちからの質問を通じて語ってもらう予定になっています。